

平成24年度 主な組織改正

7月に福祉総合窓口を開設

複雑・多様化する住民ニーズに対応するため、4月1日から、組織体制の強化・充実を図ります。

「福祉総合窓口」の開設

市民の皆さんの利便性向上を図るため、保健福祉部の保健福祉政策課に「福祉総合窓口担当調整監」を配置するとともに窓口の一元化を図り、福祉分野（高齢、介護、障がい、子育て、国民健康保険・年金）に関する相談や案内、証明書の発行などに対応する「福祉総合窓口」を開設（7月予定）します。

道後温泉本館改修に伴う体制の整備

本市の観光シンボルの一つである道後温泉本館の改修工事に伴う観光面や地域経済に及ぼす影響を検証し対策を講じるとともに、約120年前、今日の道後温泉の基礎を創り上げた伊庭如矢氏の本館改修事業などの功績を顕彰し、魅力ある道後のまちづくりに取り組むため、産業経済部の産業政策課に「道後温泉活性化担当調整監」を配置します。

JR松山駅周辺のまちづくりの推進体制を強化

「京都松山の陸の玄関口」にふさわしい魅力あるまちづくりを目指し進めているJR松山駅周辺地区の土地画整理事業に伴い、新たに取得す

農林水産業振興体制の強化

「農業指導センター」を農林水産課の所管とし、農業に関する一連の取り組みを包括的に実施する体制を構築します。また同課に「水産・漁港担当調整監」を配置し、農業と水産業・漁港整備の専門性を高め、業務の効率化、農林水産業の振興を図ります。

水源の森基金へ寄付

水源の森基金へ寄付をいただいた愛媛県中華料理生活衛生同業組合松山支部に2月28日、野志市長から感謝状が贈られました。同会の角本支部長は「水源保全のため、役立てください」と話しました。



お問い合わせは、行政改革推進課 ☎948 6250・FAX 934 1843へ

お問い合わせは、水資源担当部長付 ☎948 6947・FAX 934 1886へ

新玉地区 タウンミーティング No.19

2月28日開催・中央・新玉公民館・参加者82人

住民の声

本堂が国宝の大宝寺や市民に親しまれる松山総合公園など魅力ある地域資源がある

- ・平成32年度完成を目指して、JR松山駅の鉄道高架に取り組んでほしい
- ・済美高校前の交差点付近の渋滞を解消してほしい
- ・旧宮前川を埋め立てて、道路を広げてほしい
- ・下水処理場の空き地を活用してほしい

※抜粋、要約しています。詳細は市ホームページに掲載します

参加者募集

第23回II久谷（荏原・坂本）地区

お問い合わせは、市民参画まちづくり課 ☎948 6383・FAX 934 157へ

「笑顔のまつやまがまち工房」メンバー募集

テーマ みんなで考えよう 私たちの防災

市民の皆さんと市職員が一緒に話し合い、研究を行う「笑顔のまつやまがまち工房」。今年度は「みんなで考えよう 私たちの防災」をテーマに災害時における情報伝達・収集について研究を行い、報告会で市長に意見を提言するメンバーを募集します。

【内容】6月下旬から月2回程度（平日の夜間予定）、計10回程度の研究会を市内で開催。まためた意見を市長に提言。
【対象】市内に在住または通勤・通学し、テーマに関心があり、研究会・報告会に出席できる人
【定員】20人程度（応募多数の場合は書類選考）
【申し込み】4月20日（必

着）までに、郵送またはファクス、eメールで住所、氏名（ふりがな）、年齢、職業、電話番号、応募理由（600字程度、様式不問）を書いて、〒790 8571 市民参画まちづくり課 e: siminseikaku@city.matsuyama.ehime.jp / お問い合わせは、市民参画まちづくり課 ☎948 6383・FAX 934 157へ

待ち合わせに！休憩に！ まちなか子育て・市民交流センターをご利用ください

まちなか子育て・市民交流センター（愛称「てくるん」〈大街道一丁目〉）は、託児室のほか会議やギャラリーなどのイベントができる多目的交流スペースを備えています。ぜひご利用ください。

利用時間	料金・申し込み
託児室（未就学児まで） 日曜・祝日の10～20時	最初の1時間まで400円、以後30分までごと200円 ※お預かりは最長で3時間 ☎・FAX 904-7007
多目的交流スペース 毎日10～20時	1㎡当たり10円 (1時間単位・最大60㎡) ☎・FAX 904-5728

※利用方法などはお問い合わせください

お問い合わせは、託児室は保育課 ☎948-6951・FAX 934-1814、多目的交流スペースは地域経済課 ☎948-6548・FAX 934-1844へ

「誇れる」地域の宝 新玉編 ～まちのいいところ～



市民に親しまれる松山総合公園

陸の玄関口へと進むまちづくり

新玉地区は、市内中心部からJR松山駅を含む、西は大峰ヶ台の丘陵地まで東西に長い人口1万2687人、世帯数6509世帯（3月1日現在）。明治21年に伊予鉄道の松山市駅が、昭和2年にはJR松山駅が開業し市街化が進む一方、総合コミュニケーションセンターやコムズ、松山総合公園など多くの市民が憩い、交流できる公共施設の充実した地区です。

当地区の大峰ヶ台の南には「うば桜伝説」が残る大宝寺があり、その本堂は県内最古の木造建造物といわれ、国宝に指定されています。うば桜伝説とは乳母に大切に育てられた女の子が重い病気に陥った際、乳母が大宝寺の薬師如来に祈ったところ女の子の病気が治りましたが、代わりに乳母が亡くなりました。その後、乳母の言い残した寺に植えられた桜の花は乳母のように白く、形が乳母

の乳房のようであったことから「うば桜」と呼ばれるようになりました。当地区は西環状線や松山空港線（新空港通り）の開通などで大きく発展しています。現在は、平成32年度の完成を目標に、JR予讃線の高架事業と駅周辺地域の土地画整理事業が行われ、県都の陸の玄関にふさわしい魅力あるまちづくりが進められています。



大宝寺のうば桜